

ラッセル・インベストメント日本株式ファンド(DC向け)

追加型投信／国内／株式

投資信託説明書(交付目論見書)

2019年1月19日

| 商品分類 | | | 属性区分 | | | |
|---------|--------|-------------------|------------------------------|------|--------|---------------|
| 単位型・追加型 | 投資対象地域 | 投資対象資産 (収益の源泉) | 投資対象資産 | 決算頻度 | 投資対象地域 | 投資形態 |
| 追加型 | 国内 | 株式 | その他資産 (投資信託証券 (株式 一般)) | 年1回 | 日本 | ファミリー ファンド |

※商品分類および属性区分の定義につきましては、一般社団法人投資信託協会のホームページ(<http://www.toushin.or.jp/>)をご参照ください。

- ◆本書は、金融商品取引法(昭和23年法律第25号)第13条の規定に基づく目論見書です。
- ◆この目論見書により行う「ラッセル・インベストメント日本株式ファンド(DC向け)」(以下「当ファンド」といいます。)の募集については、発行者であるラッセル・インベストメント株式会社(委託会社)は、金融商品取引法第5条の規定により有価証券届出書を2019年1月18日に関東財務局長に提出しており、2019年1月19日にその効力が生じております。
- ◆当ファンドに関する金融商品取引法第15条第3項に規定する目論見書(以下「請求目論見書」といいます。)は委託会社のホームページで閲覧、ダウンロードすることができます。なお、当ファンドの信託約款の全文は請求目論見書に掲載しています。
- ◆請求目論見書については、販売会社にご請求いただければ当該販売会社を通じて交付いたします。なお、販売会社に請求目論見書をご請求された場合には、その旨をご自身で記録しておくようにしてください。
- ◆当ファンドの販売会社、基準価額等については、下記委託会社の照会先までお問い合わせください。
- ◆当ファンドは、商品内容に関して重大な変更を行う場合には、投資信託及び投資法人に関する法律(昭和26年法律第198号)に基づき、事前に受益者の意向を確認する手続きを行います。
- ◆当ファンドの信託財産は、受託会社により保管されますが、信託法に基づき、受託会社の固有財産等との分別管理が義務付けられています。
- ◆ご購入に際しては、本書の内容を十分にお読みください。

委託会社 [ファンドの運用の指図を行う者]

ラッセル・インベストメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第196号

- 設立年月日：1999年3月9日
- 資本金：4億9,000万円(2018年11月末現在)
- 運用する投資信託財産の合計純資産総額：1,873億8,908万円(2018年11月末現在)

照会先

<ホームページ> <https://www.russellinvestments.com/jp/>

<電話番号> 0120-055-887(フリーダイヤル)

(受付時間：営業日の午前9時～午後5時)

受託会社 [ファンドの財産の保管および管理を行う者]

三菱UFJ信託銀行株式会社

ファンドの目的・特色

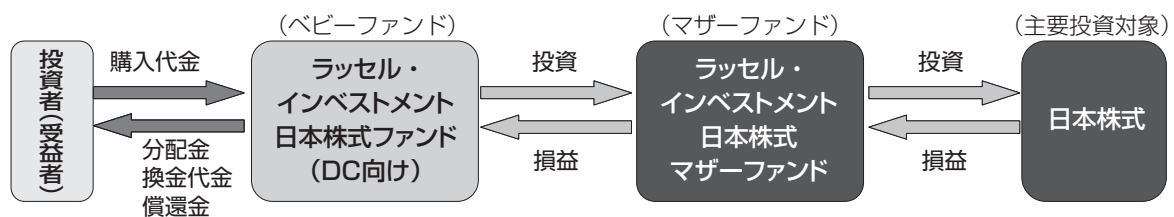
ファンドの目的

信託財産の長期的な成長を図ることを目的として運用を行います。

ファンドの特色

◇日本の株式を実質的な主要投資対象とします。

当ファンドはファミリーファンド方式で運用します。ファミリーファンド方式とは、投資者（受益者）から投資された資金をまとめてベビーファンド（当ファンド）とし、その資金を「ラッセル・インベストメント日本株式マザーファンド」（以下「マザーファンド」といいます。）に投資して、実質的な運用をマザーファンドにて行う仕組みです。

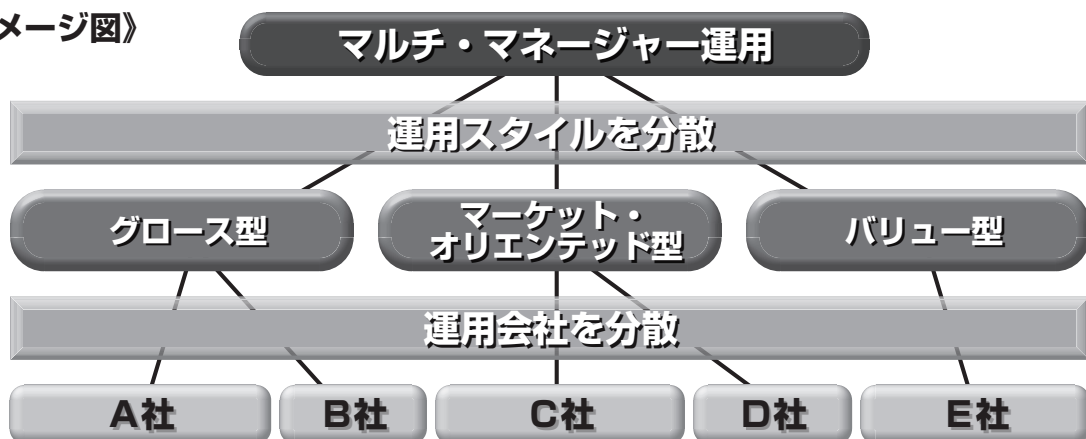


◇TOPIX（配当込み）をベンチマークとし、中長期的に安定してベンチマークを上回ることを目指します。

◇運用スタイルの異なる複数の運用会社を組み合わせた「マルチ・マネージャー運用」を行います。

●世界中から厳選した複数の運用会社を、最適と判断される目標配分割合で組み合わせます。

《イメージ図》



<運用スタイルについて>

運用スタイルは、投資対象のどのような面に焦点をあて銘柄選択を行うか、付加価値を生み出すためにどのような要因に着目するかなどによって分類されます。株式を主要投資対象とするファンドの場合、以下の運用スタイルなどがあります。

グロース(成長)型 : 特に企業の成長性に着目し、利益等の成長性が市場平均よりも高いと考える株式(グロース株)を主な投資対象とする運用スタイルをいいます。

バリュー(割安)型 : 特に株価水準に着目し、企業の資産価値などから判断して株価が過小評価されていると考える株式(バリュー株)を主な投資対象とする運用スタイルをいいます。

マーケット・オリエンテッド型 : 「グロース(成長)型」や「バリュー(割安)型」のように、特定の傾向をもつ株式のみに焦点を当てるのではなく、幅広い株式を投資対象とします。

※「運用会社」について、運用の指図にかかる権限を委託する運用会社を「外部委託先運用会社」、外部委託先運用会社が投資助言を受ける会社を「投資助言会社」ということがあります。

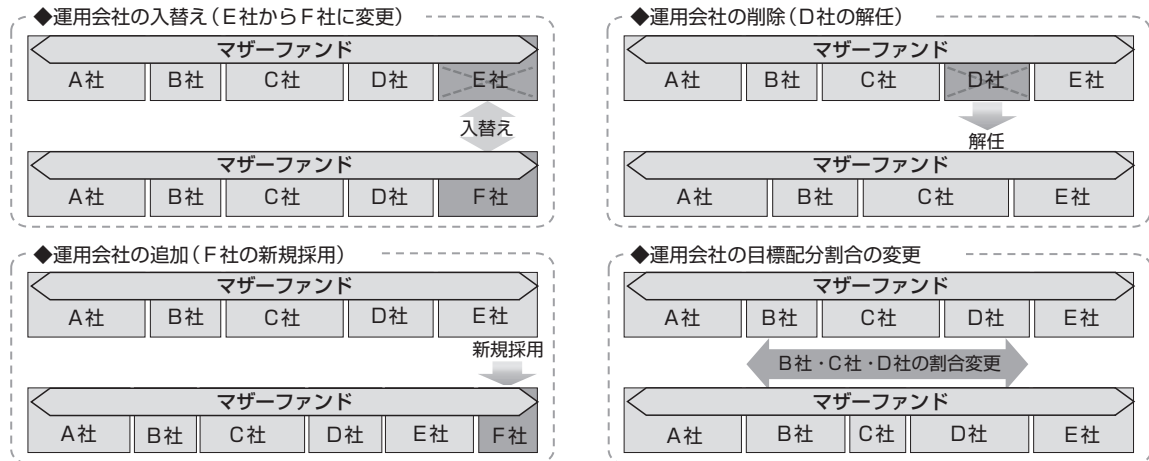
※「目標配分割合」とは、マルチ・マネージャー運用において運用会社を組み合わせる際に目安とする配分割合をいいます。

資金動向、市況動向等により、上記のような運用ができない場合があります。

ファンドの目的・特色

- 運用会社を継続的にモニタリングし、必要に応じて運用会社や目標配分割合の変更を行います。以下はマルチ・マネージャー運用の代表的な事例のイメージ図です。運用に際しては、以下の事例とは異なる運用会社や目標配分割合の変更を行うことがあります。なお、当ファンドではマザーファンドにてマルチ・マネージャー運用を行います。

マルチ・マネージャー運用事例(イメージ図)



- 運用会社や目標配分割合の変更は、原則として事前の告知なく随時行います。運用会社および目標配分割合に関する最新の情報は委託会社のホームページでご提供しております。なお、2019年1月18日現在の状況は以下のとおりです。

《ラッセル・インベストメント日本株式マザーファンド》

| 運用スタイル | 運用会社(外部委託先運用会社/投資助言会社) | 目標配分割合 |
|----------------|---|--------|
| グロース(成長)型 | アセットマネジメントOne株式会社(日本) | 25% |
| | カムイ・キャピタル株式会社(日本)《投資助言》 ^(注) | 10% |
| | クープランド・カーディフ・アセット・マネジメント・エル・エル・ピー(英国) | 10% |
| バリュー(割安)型 | 損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント株式会社(日本)《投資助言》 ^(注) | 30% |
| | ラッセル・インベストメント・インプリメンテーション・サービシーズ・エル・エル・シー(米国) | 10% |
| マーケット・オリエンテッド型 | スパークス・アセット・マネジメント株式会社(日本)《投資助言》 ^(注) | 15% |

(注)各投資助言会社の投資助言に基づき、ラッセル・インベストメント・インプリメンテーション・サービシーズ・エル・エル・シーが運用の指図を行います。

※マザーファンド全体の運用効率を高めること、各運用会社の入替え等に際しての資産の移転管理および一時的な運用、委託会社が必要と判断した場合におけるマザーファンドの一部についての運用(投資助言会社からの投資助言等に基づく運用を含みます。)等を行うため、「ラッセル・インベストメント・インプリメンテーション・サービシーズ・エル・エル・シー(米国)」を採用しています。

■配分方針

年1回の決算時(毎年4月18日。休業日の場合は翌営業日。)に分配を行います。ただし、分配の有無および分配金額は、基準価額の水準等を勘案して委託会社が決定します。

*将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

■主な投資制限

- 株式への投資割合
株式への実質投資割合には制限を設けません。
- 投資信託証券への投資割合
投資信託証券(マザーファンド受益証券および上場不動産投資信託証券を除きます。)への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。
- 外貨建資産への投資割合
外貨建資産への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の50%以内とします。

資金動向、市況動向等により、上記のような運用ができない場合があります。

投資リスク

基準価額の変動要因

当ファンドの基準価額は、実質的に投資を行っている有価証券等の値動きによる影響を受けますが、これらの運用による損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。したがって、当ファンドにおいて、投資者のみなさまの投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金が割り込むことがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。

株価変動リスク

株価は国内外の景気、経済、社会情勢の変化等の影響を受けます。一般に、株価が下落した場合には、当ファンドの基準価額が下落する要因となります。

株式の発行会社の信用リスク

株式の発行会社の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化等により、株価が下落した場合には、当ファンドの基準価額が下落する要因となります。

流動性リスク

当ファンドで短期間に相当金額の換金申込みがあった場合、組入株式を売却することで換金代金の手当てを行いますが、組入株式の市場における流動性が低いときには、市場実勢から期待される価格で売却できない可能性があり、当ファンドの基準価額が下落する要因となります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

投資リスク

その他の留意点

- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- 当ファンドはファミリーファンド方式で運用を行います。そのため、マザーファンドを投資対象とする他のベビーファンドに追加設定・解約等に伴う資金変動等があり、その結果、マザーファンドにおいて売買等が生じた場合等には、当ファンドの基準価額に影響を及ぼす場合があります。
- 分配金に関する留意点
分配金は、預貯金の利息と異なり、当ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額が下落します。
分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の利子・配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は計算期間における当ファンドの収益率を示すものではありません。
投資者の当ファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。当ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

リスクの管理体制

運用に関わるリスクの管理は、運用の指図にかかる権限を委託している外部委託先運用会社の管理と当ファンド全体の管理の2段階にわたって行われます。

運用の指図にかかる権限を委託している外部委託先運用会社の管理に関しては、運用部が外部委託先運用会社毎に運用ガイドラインの遵守状況のモニタリング等を通じて行っています（グループ会社に対しても、必要な監督を行っています。）。なお、外部委託先運用会社が投資助言会社の投資助言に基づいて運用の指図を行う場合は、当該投資助言会社に対しても、必要なモニタリング等を行います。

また、当ファンド全体の管理に関しては、法務・コンプライアンス部が法令・信託約款の遵守状況等のモニタリングを通じて行っています。

投資リスク

参考情報

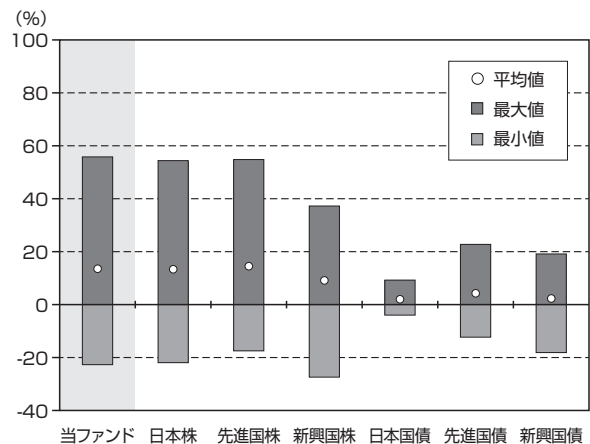
当ファンドの年間騰落率および分配金再投資基準価額の推移

(2013年12月末～2018年11月末)



当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較

(2013年12月末～2018年11月末)



| (単位:%) | 当ファンド | 日本株 | 先進国株 | 新興国株 | 日本国債 | 先進国債 | 新興国債 |
|--------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|
| 平均値 | 13.5 | 13.4 | 14.5 | 9.1 | 2.0 | 4.3 | 2.3 |
| 最大値 | 55.8 | 54.4 | 54.8 | 37.2 | 9.3 | 22.7 | 19.2 |
| 最小値 | -22.7 | -22.0 | -17.5 | -27.4 | -4.0 | -12.3 | -18.1 |

※当ファンドの分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、実際の基準価額とは異なる場合があります。

※当ファンドの年間騰落率は分配金再投資基準価額に基づいて計算しています。

※左グラフにおける年間騰落率は、当ファンドの5年間の各月末における直近1年間の騰落率で、その推移を棒グラフで表示しています。

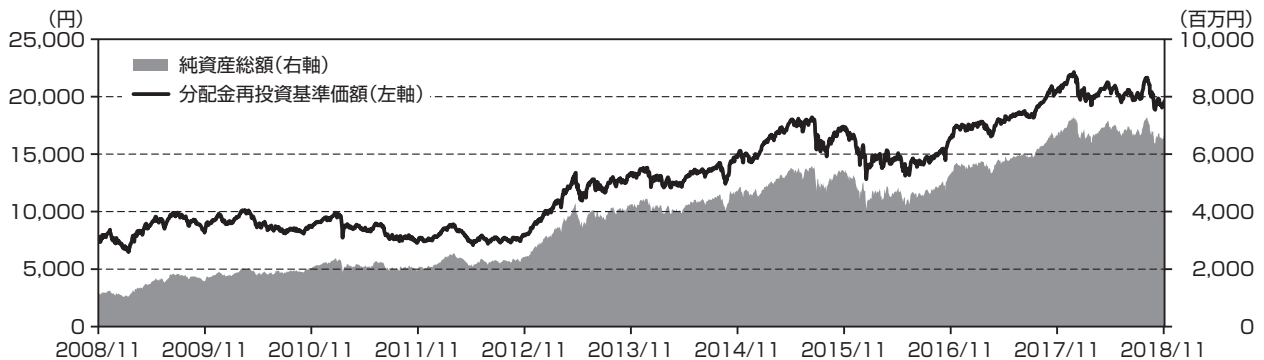
※右グラフは、当ファンドおよび代表的な資産クラスの5年間の各月末における直近1年間の騰落率を元に、その平均値・最大値・最小値を表示したものです。なお、右グラフは当ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したもので、すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

※各資産クラスの年間騰落率の計算に際しては、以下の指数を使用しています。なお、各指数については、後述の追加的記載事項をご参照ください。

- 日本株 …… TOPIX(配当込み)
- 先進国株 …… MSCI KOKUSA I(配当込み)
- 新興国株 …… MSCI エマージング・マーケット・インデックス(配当込み)
- 日本国債 …… NOMURA-BPI 国債
- 先進国債 …… FTSE 世界国債インデックス(除く日本、円ベース)
- 新興国債 …… FTSE 新興国市場国債インデックス(円ベース)

運用実績 (2018年11月末現在)

■基準価額・純資産の推移 (2008年11月末～2018年11月末)



※分配金再投資基準価額は1万口当たり、信託報酬控除後のものです。

※分配金再投資基準価額は分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算しています。

■分配の推移

| 決算期 | 第11期 (2014年4月) | 第12期 (2015年4月) | 第13期 (2016年4月) | 第14期 (2017年4月) | 第15期 (2018年4月) | 設定来累計 |
|-----|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------|
| 分配金 | 0円 | 0円 | 0円 | 0円 | 0円 | 0円 |

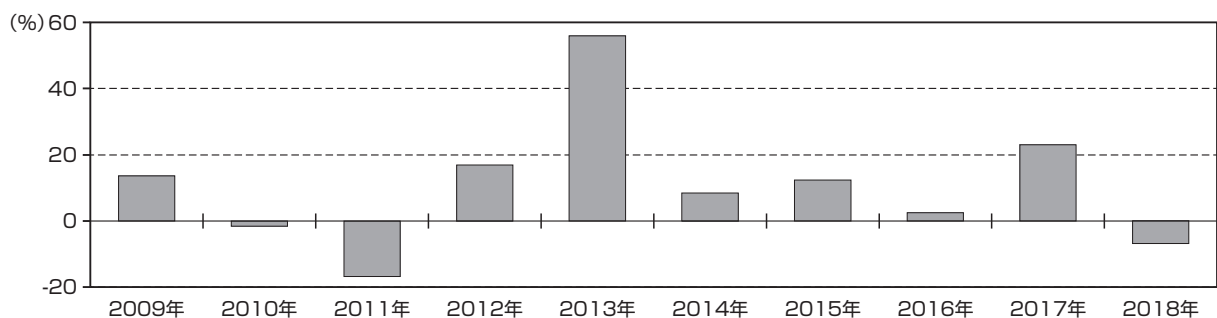
※分配金は1万口当たり、税引前です。

■主要な資産の状況

| 順位 | 銘柄名 | 種類 | 業種 | 実質組入比率 |
|----|-------------------|----|--------|--------|
| 1 | 三菱商事 | 株式 | 卸売業 | 1.8% |
| 2 | トヨタ自動車 | 株式 | 輸送用機器 | 1.6% |
| 3 | 三菱UFJフィナンシャル・グループ | 株式 | 銀行業 | 1.6% |
| 4 | 日本電信電話 | 株式 | 情報・通信業 | 1.6% |
| 5 | 三井住友フィナンシャルグループ | 株式 | 銀行業 | 1.4% |
| 6 | リクルートホールディングス | 株式 | サービス業 | 1.4% |
| 7 | ソフトバンクグループ | 株式 | 情報・通信業 | 1.4% |
| 8 | 日本電産 | 株式 | 電気機器 | 1.4% |
| 9 | テルモ | 株式 | 精密機器 | 1.3% |
| 10 | ソニー | 株式 | 電気機器 | 1.3% |

※実質組入比率は、マザーファンドの純資産総額に対する組入比率に、当ファンドのマザーファンド組入比率を乗じて得た比率です。

■年間収益率の推移 (暦年ベース)



※当ファンドの年間収益率は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算しています。

※2018年は11月末までの収益率を表示しています。

▶ 当ファンドの運用実績はあくまで過去の実績であり、将来の運用成果をお約束するものではありません。

手続・手数料等

お申込みメモ

| | |
|-------------------|--|
| 購入単位 | 1円以上1円単位 |
| 購入価額 | 購入申込受付日の基準価額 |
| 購入代金 | 販売会社の定める期日までにお支払いください。 |
| 換金単位 | 1口単位。ただし、販売会社によって異なる場合があります。 |
| 換金価額 | 換金申込受付日の基準価額 |
| 換金代金 | 原則として換金申込受付日から起算して5営業日目からお支払いします。 |
| 申込締切時間 | 午後3時まで、販売会社が受付けた分を当日のお申込み分とします。 |
| 購入の申込期間 | 2019年1月19日から2019年7月18日まで ※申込期間は、上記期間満了前に有価証券届出書を提出することによって更新されます。 |
| 換金制限 | 当ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口のご換金には制限があります。 |
| 購入・換金申込受付の中止及び取消し | 取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止その他合理的な事情があると委託会社が判断したときは、委託会社の判断により、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、および既に受付けた購入・換金のお申込みの受付を取消することができます。 |
| 信託期間 | 無期限(2004年1月30日設定) |
| 繰上償還 | 当ファンドの純資産総額が10億円を下回る事となった場合等には、繰上償還となる場合があります。 |
| 決算日 | 毎年4月18日(休業日の場合は翌営業日) |
| 収益分配 | 年1回の決算時に分配方針に基づいて分配を行います。ただし、分配の有無および分配金額は、基準価額の水準等を勘案して委託会社が決定します。 原則として、分配金は無手数料で自動的に再投資されます。 |
| 信託金の限度額 | 1兆円 |
| 公告 | 原則として、電子公告の方法により行い、委託会社のホームページ(https://www.russellinvestments.com/jp/)に掲載します。 |
| 運用報告書 | 毎決算時および償還時に交付運用報告書を作成し、知られたる受益者に対して交付します。なお、運用報告書(全体版)は、委託会社のホームページでご覧いただけます。 |
| 課税関係 | 課税上は株式投資信託として取り扱われます。 配当控除の適用があります。益金不算入制度の適用はありません。 |
| 投資者の制限 | 原則として、投資者は確定拠出年金法に規定される加入者等の運用の指図に基づいて購入申込みを行う資産管理機関および国民年金基金連合会等に限るものとします。 |

手続・手数料等

ファンドの費用・税金

<ファンドの費用>

投資者が直接的に負担する費用

| | |
|---------|--------|
| 購入時手数料 | ありません。 |
| 信託財産留保額 | ありません。 |

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

| | | |
|------------------|---|---------------------|
| 運用管理費用 (信託報酬) | 日々の純資産総額に対して年率1.5444% (税抜1.43%) を乗じて得た額とします。運用管理費用 (信託報酬) は日々計上され、当ファンドの基準価額に反映されます。なお、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日および毎計算期末または信託終了のときに当ファンドから支払われます。 | |
| | <信託報酬=運用期間中の基準価額×信託報酬率> (信託報酬の配分) | |
| | 支払先 | 配 分 |
| | 委託会社* | 年率0.9180%(税抜 0.85%) |
| | 販売会社 | 年率0.5400%(税抜 0.50%) |
| | 受託会社 | 年率0.0864%(税抜 0.08%) |
| | 役務の内容 | |
| | 当ファンドの運用等の対価 | |
| | 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内での当ファンドに係る管理事務、購入後の情報提供等の対価 | |
| | 当ファンドの資産管理等の対価 | |
| | ※マザーファンドで運用の指図にかかる権限の委託をしている各外部委託先運用会社への報酬額は、委託会社と当該各外部委託先運用会社との間で別途定められ、委託会社が受ける報酬から支払われます。 | |
| その他の費用・手数料 | 組入有価証券の売買時の売買委託手数料、先物・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等が当ファンドから支払われます。これらの費用は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことができません。 | |

※当ファンドの費用(手数料等)の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

<税金>

- 税金は表に記載の時期に適用されます。ただし、確定拠出年金法に規定する資産管理機関および国民年金基金連合会等の場合、分配金、換金(解約)時および償還時の差益については所得税および地方税がかかりません。また、確定拠出年金制度の加入者については、確定拠出年金の積立金の運用にかかる税制が適用されます。
- 以下の表は、確定拠出年金法に規定される税制上の措置の対象外となる個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。

| 時 期 | 項 目 | 税 金 |
|---------------|-----------|---|
| 分配時 | 所得税および地方税 | 配当所得として課税 普通分配金に対して20.315% |
| 換金(解約)時および償還時 | 所得税および地方税 | 譲渡所得として課税 換金(解約)時・償還時の差益(譲渡益)に対して20.315% |

※上記は、2018年11月末現在のものです。税法または確定拠出年金法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。

※法人の場合は上記と異なります。

※税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

追加的記載事項

ラッセル・インベストメント・インプリメンテーション・サービシズ・エル・エル・シー(RIIS)の「トランジション・マネジメント」に関する費用について

マザーファンドで採用するマルチ・マネージャーの運用アプローチでは、委託会社は運用の指図にかかる権限を委託する外部委託先運用会社の入替え等に際して資産の移転管理および一時的な運用を行う場合があります（以下「トランジション・マネジメント」といいます。）。トランジション・マネジメントを行う場合には、比較的短期間に通常よりも多くの取引が行われます。この間の意図せざる市場エクスポージャーやリスクを最小限に抑えるため、委託会社は運用の指図にかかる権限の一部をRIISに委託します。なお、RIISはトランジション時の市場エクスポージャーとリスクを管理するためのトレーディング戦略の策定とその実施に特化したブローカー業務も行っており、多くの場合、自社の当該部門をトランジション・マネジメント時のブローカーとして利用します。RIISはグループ内のファンドだけでなくグループ外の顧客に対しても同様のサービスを提供しています。ブローカー業務の対価としてRIISに支払われる手数料は、運用報告書（全体版）の「利害関係人との取引状況等」においてRIISを利害関係人に準ずるものとみなして開示されます。

ベンチマークおよび「当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

◆TOPIX(配当込み)

TOPIX（配当込み）は東京証券取引所第一部に上場されているすべての銘柄の時価総額を指数化したものに、現金配当による権利落ちの修正を加えたものです。TOPIXは、株式会社東京証券取引所の知的財産であり、株価指数の算出、公表、利用などTOPIXに関するすべての権利およびTOPIXの商標に関するすべての権利は株式会社東京証券取引所が所有しています。また、これらの情報は信頼のおける情報源から得たものではありませんが、株式会社東京証券取引所はその確実性および完結性に責任を負うものではありません。

◆MSCI KOKUSAI(配当込み)

MSCI KOKUSAI（配当込み）は、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界主要国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。当該インデックスに関する著作権およびその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属しており、その許諾なしにコピーを含め電子的、機械的な一切の手段その他、あらゆる形態を用い、インデックスの全部または一部を複製、配付、使用することは禁じられています。また、これらの情報は信頼のおける情報源から得たものですが、その確実性および完結性をMSCI Inc.は何ら保証するものではありません。

◆MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み)

MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み）は、MSCI Inc.が開発した株価指数で、新興国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。当該インデックスに関する著作権およびその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属しており、その許諾なしにコピーを含め電子的、機械的な一切の手段その他、あらゆる形態を用い、インデックスの全部または一部を複製、配付、使用することは禁じられています。また、これらの情報は信頼のおける情報源から得たものですが、その確実性および完結性をMSCI Inc.は何ら保証するものではありません。

◆NOMURA-BPI 国債

NOMURA-BPI 国債は、野村證券株式会社が公表する、国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数です。NOMURA-BPIは、野村證券株式会社が作成している指数で、当該指数に関する一切の知的財産権とその他一切の権利は野村證券株式会社に帰属しています。また、野村證券株式会社は、当該インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負うものではありません。

◆FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。当該インデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。当該インデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

◆FTSE新興国市場国債インデックス(円ベース)

FTSE新興国市場国債インデックス（円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、主要新興国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。当該インデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。当該インデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

